

ほけんだより 9月

ニチキッズ
まつなわ西保育園

今年の夏も猛暑で、酷暑日と言われる日もありました。まだまだ日中は暑い日が続いています。保育園でのお水遊びやお外遊びの日は暑さ指数(WBGT)が危険なレベルに達すると音や光、振動でアラームを鳴らして知らせてくれる機器で計測してから園外に出るようにしています。水分補給もしっかりして残暑をのりきりましょう。

★9月9日は、救急の日★

救急の日は、“救急について関心や理解を深めよう”という日です。救急とは、急に大変なことが起こった時に救うこと。特に、急に病気になった人や、けがをした人に応急の手当てをすることです。家庭の中にも事故やけがを招く危険なものがたくさんあります。事故を防ぐために、確認をしてみましょう。

○子どもの手の届く場所においてはいけないもの

薬、洗剤、たばこ、ライター、ポット、炊飯器、包丁などの刃物、針、子どもが飲み込める大きさの物(直径32mm程度)、喉に詰まる恐れのある物(45mm程度)など。

○踏み台になるものはベランダに置かない。

○コンセントなどをいたずらできないようにする。

○遊び食べに注意する。(食べ物が喉につまることがある)

○浴室には子ども一人で勝手に入れないよう工夫する。



緊急事態で救急車を呼ぼうか判断に困ったとき…、
まずは「小児救急でんわ相談」に相談してみましょう。

#8000

モイストタイプの絆創膏について

2歳以下の乳幼児には使用できません(製品によっては「3歳未満は使用不可」と記載されているものもあります)。

使用できない主な理由は以下の3点です。

1. 皮膚が薄く、剥がすときに傷つけてしまうため

2歳以下のお子様は肌のバリア機能が未熟で、皮膚が非常に薄いです。モイストタイプの絆創膏は密閉性と粘着力が強いため、剥がす際にお子様の正常な皮膚まで一緒に剥ぎ取ってしまう(表皮剥離)リスクがあります。

2. 感染症のリスクに気づきにくい

乳幼児は自分で「ズキズキ痛む」「熱い」といった初期の異常を正確に伝えることができません。モイストタイプは傷口を密閉するため、万が一菌が繁殖して感染症(化膿)を起こした場合、発見が遅れて重症化する恐れがあります。

3. 誤飲のリスクがあるため

赤ちゃんや2歳前後のお子様は、気になったものを口に入れてしまうことがあります。剥がれかけた絆創膏を口に入れて喉に詰まらせてしまう窒息事故を防ぐため、年齢制限が設けられています。

2歳以下のお子様の傷はどうすればいい？

1. **まずはしっかり洗浄**: 傷口についた砂や泥、バイ菌を水道水の流水でしっかり洗い流します。
2. **通常の絆創膏で保護**: 皮膚に優しい低刺激性の一般的な救急絆創膏(こまめに交換するもの)を使い、傷口を保護してください。保育園では誤飲の危険があるため上から保護テープをお願いします。
3. **病院を受診する**: 傷が深い場合や、ジクジクして赤み・腫れがある場合は、自己判断せず皮膚科や小児科を受診することをおすすめします。